復興を力強く進め、新しい三陸を創造しよう

新しい校舎で平成30年度第3学期を迎えた陸前高田市立気仙小学校4年生の皆さん。

復興を力強く進め、全国、世界に復興の姿を発信する1年に

3月11日、東日本大震災津波から、8年が経ちます。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の誠を捧げます。また、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。そして、県内外から復興を支援してくださっている大勢の皆さまに、深く感謝いたします。

昨年は、被災した全ての県立病院や公立学校施設の復旧が完了するなど、暮らしの再建が進展したことに加え、宮古港と室蘭港を結ぶ本県初となるフェリー航路が開設されました。また、復興道路等の整備と併せて、岩手と台湾や上海を結ぶ国際定期便が就航するなど、新しい交通ネットワークが広がり、観光や経済などさまざまな交流を深めることができました。

復興の実感が着実に広がりつつある一方で、いまだ多くの方々が応急仮設住宅等で不自由な生活を送られています。暮らしの再建や心と体のケアなどの被災者支援、農林水産業や商工業の振興など、三陸地域の将来を展望しながら、復興の取り組みを力強く進めていきます。

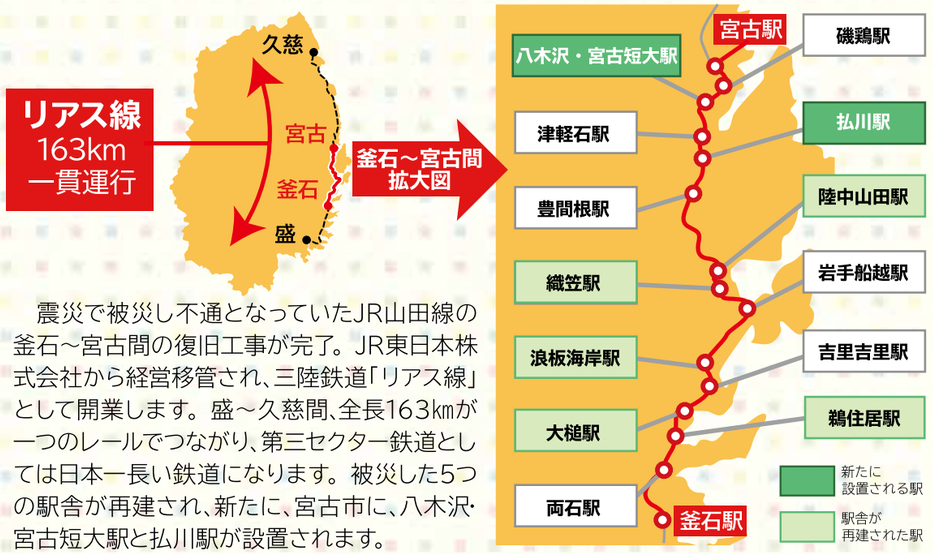
また、今年は三陸鉄道リアス線の開業や、三陸防災復興プロジェクト2019の開催、東日本大震災津波伝承館の開館、ラグビーワールドカップ2019（TM）の開催など、岩手・三陸が大きな注目を集めます。国内外へ東日本大震災津波の教訓や復興の姿を強力に発信していきます。

これからも、「誰一人として取り残さない」という理念の下、被災者イコール復興者一人一人が復興を果たすことができるよう、お互いに支え合いながら取り組みを進めていきましょう。

岩手県知事　達増 拓也

安全の確保

三陸鉄道「リアス線」運行開始



オランダ風車をイメージした陸中山田駅

「ひょうたん島」をモチーフにした大槌駅

釜石鵜住居復興スタジアムの玄関口となる鵜住居駅

震災で被災し不通となっていたJR山田線の釜石～宮古間の復旧工事が完了。JR東日本株式会社から経営移管され、三陸鉄道「リアス線」として開業します。盛～久慈間、全長163㎞が一つのレールでつながり、第三セクター鉄道としては日本一長い鉄道になります。被災した5つの駅舎が再建され、新たに、宮古市に、八木沢・宮古短大駅と払川駅が設置されます。

一般国道340号「立丸峠」工区全線開通

遠野市と宮古市をつなぐ一般国道340号「立丸峠」工区が、昨年11月に全線開通。国道340号は、震災で後方支援の拠点となった遠野市から沿岸被災地への自衛隊や消防の派遣、物資輸送で大きな役割を果たしました。一方、道幅が狭く、急カーブと急勾配が続き、冬季には雪崩による通行止めが度々発生するなど交通の難所と言われていました。今回の開通により、危険箇所が解消され、遠野～宮古間の移動距離が約4㎞、時間が約6分短縮。広域的な防災力の強化や観光の活性化が期待されます。

昨年11月に行われた開通式典の様子

宮古・室蘭フェリー航路開設

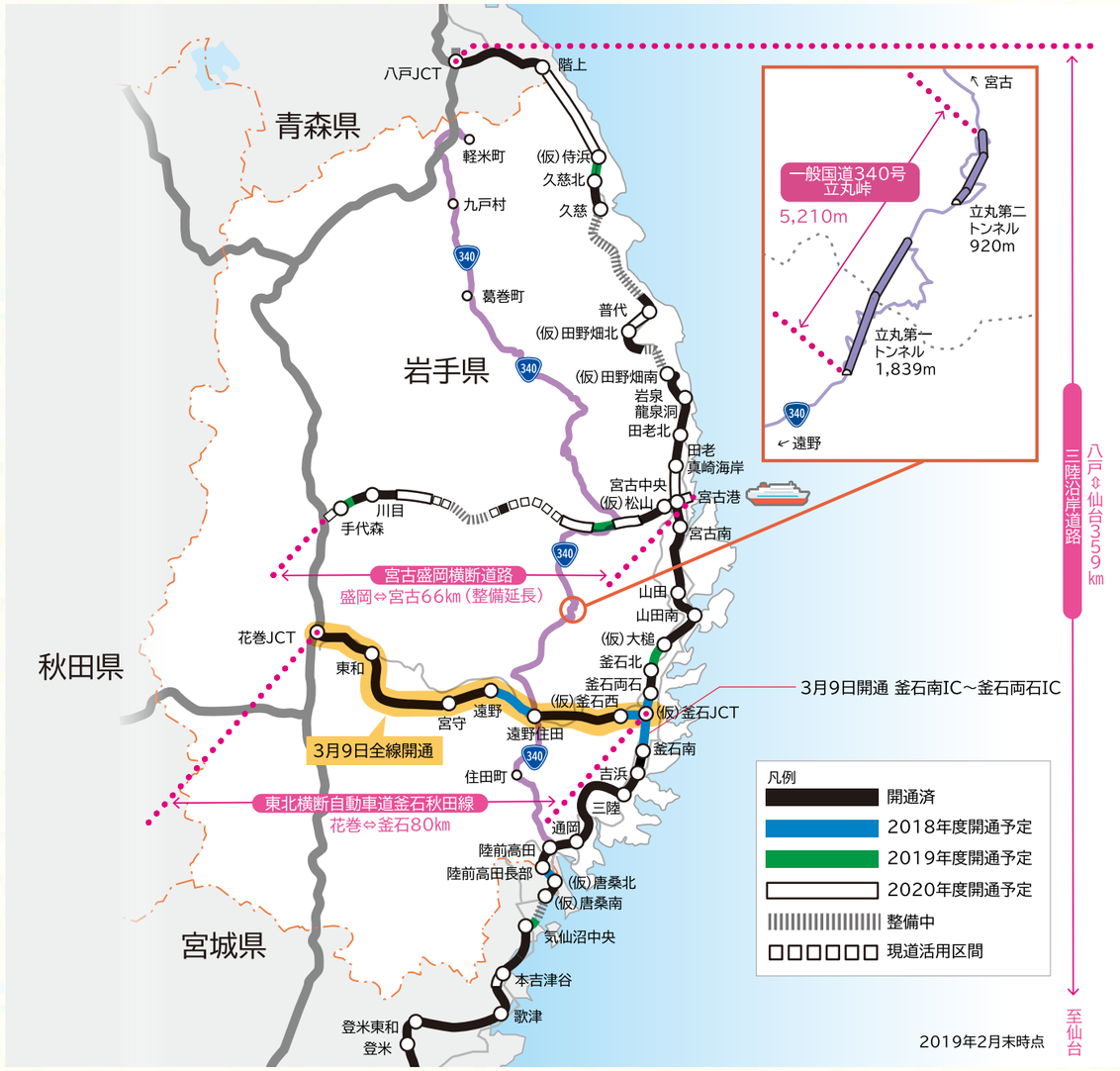
宮古港と北海道室蘭港を結ぶ、岩手初のフェリーが昨年6月に就航。観光での利用のほか、復興道路等の開通や降雪量が少ない沿岸の気候もあり、貨物トラックの利用も期待されます。北海道との観光・物流ルートの選択肢が増えたことで、物流関連をはじめ製造業や観光などさまざまな産業の活性化につながることが期待されます。

東北横断自動車道釜石秋田線開通

3月9日に、花巻市と釜石市をつなぐ全長約80㎞の「東北横断自動車道釜石秋田線（釜石自動車道）」が全線開通し、内陸と沿岸が初めて高速道で結ばれます。ガントリークレーンの整備などによりコンテナ取扱量が増加している釜石港が、内陸とつながることによる物流の効率化をはじめ、復興のさらなる加速が期待されます。

三陸沿岸道路釜石以南が開通

沿岸を南北につなぐ三陸沿岸道路は、かつてないスピードで整備が進められています。3月9日には、釜石南IC～釜石両石ICの14.6㎞が開通し、それまでの開通区間と合わせ、陸前高田市から釜石市までの54.8㎞が全線開通します。2019年度には、釜石北IC～大槌ICが開通し、陸前高田市から宮古市までが一つにつながります。



県内の復興道路等は無料で通行できます（東和～花巻間を除く）。

応援職員インタビュー

道路の改良工事で復興を支援する！

沿岸部と内陸部をつなぐ国道340号は、復興を進める上で重要な道路です。しかし、陸前高田市と住田町の間に位置する山谷地区は、大型車両が通るには道幅が狭く、道路の冠水被害も発生していました。そこで、道幅を2車線に広げ、かさ上げする工事と新しいルートに道路をつくる工事を行っています。

この整備に携わっているのが、群馬県から派遣された林直文さん。学生時代を岩手で過ごした縁もあり、技師としての経験を「岩手の復興のために生かしたい」と、昨年4月に着任しました。「川沿いの道路のため自然環境に配慮しながら工事を進めてきました。工事が完了すれば物流はもちろん、産業の活性化に役立つはずです」と林さん。山谷地区の道路改良工事は、3月末に完了する予定です。

震災後、定期的に岩手を訪れ、復興の様子を見守ってきたと話す大船渡土木センターの林直文さん。

未来のための伝承・発信

いわての復興教育

県では、震災の経験や教訓を踏まえた活動に取り組むことで、ふるさとに対する誇りと愛着を育む「いわての復興教育」に力を入れています。1月には、県内の児童・生徒の復興教育での取り組みを発信する、児童生徒実践発表会を初めて開催しました。

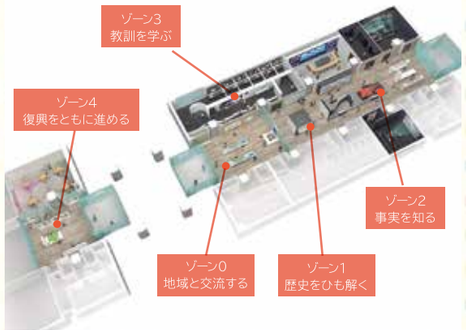
当日は8校の小・中・高校・特別支援学校が集まり、被災地見学、避難所運営や炊き出し体験、三陸鉄道の「震災学習列車」を活用した学びなど、それぞれの学校の取り組みを発表。参加した子どもたちは、他校の発表に熱心に耳を傾けながら、学びを深め合っていました。

岩手県民会館で行われた発表会で学習の成果を披露する子どもたち。

事実・教訓の伝承

東日本大震災津波伝承館

県では、震災の事実と教訓を次世代に伝えていくため、陸前高田市で整備が進む「高田松原津波復興祈念公園」内に「東日本大震災津波伝承館」を建設しています。館内には、三陸の自然災害の歴史、東日本大震災津波の事実、震災から得た教訓などを学ぶことができる展示ゾーンを設置。また、震災に関わる教材制作や人材育成にも取り組んでいきます。



9月ごろ完成予定の伝承館展示イメージ

いわて震災津波アーカイブ～希望～

県では、20万点を超える震災資料を検索・閲覧できる「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を公開しています。このアーカイブは、膨大な資料を6つのテーマに分類し、テーマごとに伝えたい経験や教訓を整理。他にも岩手日報社の新聞記事の閲覧や、教育、防災活動などの目的に合わせたコンテンツを活用できます。ぜひご活用ください。

いわて震災津波アーカイブ～希望～ 検索

なりわいの再生

まちびらきイベント開催

大船渡市では昨年4月、大船渡市防災観光交流センターの落成に合わせて「第3期まちびらき」が開催されました。また、陸前高田市でも9月に「まちびらきまつり」を開催。両市ともに、復興が進むまちの姿を発信し、市民と喜びを分かち合いながら、全国からの支援に感謝を伝えました。

大船渡駅周辺地区第3期まちびらきの様子

陸前高田市まちびらきまつりの様子

道の駅「たろう」オープン

2016年から仮営業をしていた宮古市田老地区の道の駅「たろう」が、昨年4月にグランドオープンしました。被災された方が再建した食堂や産直、餅店など、施設も充実。新たな観光拠点と地域の復興の核として、にぎわいの創出が期待されています。

多くの人でにぎわう道の駅「たろう」

暮らしの再建

災害公営住宅の整備

県が沿岸部に整備していた災害公営住宅2,595戸が、3月末で全て完成します。県は、内陸の4市（盛岡・北上・一関・奥州）にも251戸を整備しています。

昨年9月、盛岡市内に整備された県営備後第1アパート9号棟

被災地ふれあい運動教室

震災後、暮らしの環境変化に伴い、閉じこもりがちになり、生活不活発病にかかる高齢者が少なくありません。このため、県では新しいコミュニティでの生きがいづくりや健康づくりをサポートする「ふれあい運動教室」を開催しています。教室では、岩手県レクリエーション協会の講師の指導で、ゲームや簡単な体操を楽しみ、お茶を飲みながらふれあいを広げています。

高齢者の交流の場にもなってる運動教室の様子

公立学校校舎の復旧

昨年12月に、陸前高田市立気仙小学校の校舎が完成しました。これにより、震災で被災した沿岸部の公立学校86校の校舎が全て復旧しました。

高台に再建された気仙小学校

「釜石鵜住居復興スタジアム」完成

昨年8月、ラグビーワールドカップ2019TM日本大会の試合会場となる「釜石鵜住居復興スタジアム」のオープニングイベントが行われました。

メモリアルマッチ「釜石シーウェイブスRFC VS ヤマハ発動機ジュビロ」の様子

完成したスタジアム

当日は、多くの市民がお祝いに駆け付け、ゲストを招いての華やかなセレモニーや、こけら落としとなる釜石シーウェイブスRFCとヤマハ発動機ジュビロによるメモリアルマッチが開催されました。試合前には、釜石高校2年の洞口留伊(ほらぐちるい)さんがキックオフを宣言し、ふるさとへの想い、ラグビーへの想い、そして釜石を支援してくれた人々への感謝の気持ちを伝えました。

震災当時、鵜住居小学校3年生だった洞口留伊さんによる、「未来への船出」と題したキックオフ宣言

三陸防災復興プロジェクト2019

復興に取り組む地域の姿を発信し、震災の記憶と教訓を伝える「三陸防災復興プロジェクト2019」が、6月1日から8月7日まで開催されます。その一環として、「かまいし絆会議」(釜石市内の小・中学生)と三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会が取り組んでいるのが、復興支援への感謝の気持ちを表すホタテモザイクアート「ありがとう貝画」の制作です。

これは、絵柄のデザインも作品づくりも子どもたちが手掛ける大作。6月から釜石鵜住居復興スタジアムの敷地内に展示されます。子どもたちの想いがいっぱい詰まった作品で、国内外からお客さまをお迎えします。

三陸防災復興プロジェクト2019の概要やイベントの詳細はホームページでご案内しています。

三陸産のホタテの貝殻に色付けして、モザイクアートを作る「かまいし絆会議」の子どもたち。